

第3回葛城市総合計画及び総合戦略策定審議会

議事要旨

日 時：令和8年5月20日（水）午後3時30分～午後5時30分

場 所：葛城市役所 新庄庁舎 2階 会議室

出席者：北詰委員 村瀬委員 吉田委員 谷口委員 岡山委員 東林委員 人見委員
川本委員 駒井委員 吉田委員 堀内委員 森委員 布施委員 奥田委員 下村
委員 高垣委員 東野委員 松下委員 大植委員 坂上委員 松井委員

議題

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 案件
 - (1) アンケート報告（全体）について
 - (2) 次期総合計画等の方向性について
 - (3) その他
- 4 閉会

2 会長挨拶

会長より挨拶

3 案件

(1) アンケート報告（全体）について
事務局より資料Ⅰを用いて説明

松井委員

アンケートの自由記述について、報告書を見ると自由記述の件数も非常に多く、回答自体も時間がかかるものだったにもかかわらず、市民の皆さんが非常に協力してくださっている点に意識の高さを感じた。記載のまとめ方について、回答数が多い項目（「公共施設の充実」など）において、バリアフリー化の推進や図書館の開館時間延長といった具体的な要望が186件として一括りにされており、それぞれの内訳が不明確。数が少ない項目については具体的内容が載っているが、数が多い項目についても具体的な内訳を知りたい。

事務局

全ての意見を詳細に記載すると資料が膨大になるため、最終的な報告書の体裁はこの形としつつ、委員向けの資料として後日詳細がわかる資料を作成し、報告させていただく。また、個人名等の削除など、適切な処理をした上でホームページへの掲載も検討する。

奥田委員

せっかく多くの意見をいただいているので、個別データの羅列で終わるのではなく、例えば「どのようなニーズがどこに分布しているか」といった分析的な集計をAIを活用して出していれば、自由記述が生きたデータとして参考にできるのではないかと思う。

事務局

分析的な集計という部分を詳しくご教示いただけるか。

会長

テキストマイニングの共起ネットワーク分析のことかと思う。頻出する単語を視覚的に結びつける分布図のような形のことではないか。

事務局

承知した。可能な範囲で対応させていただく。

東野委員

こういったアンケートは、過去にも取っていたのか。取っていたのであれば、このアンケート結果について、5年や10年前の過去の結果と比較して、市民の考え方にどのような変

化があったのか、大きな流れを知ることはできるか。

事務局

過去にも同じようなアンケートは実施しているが、全ての設問が前回と同じではないので、居住理由や満足度など比較可能な項目については、過去の傾向との違いがわかる形でお示しさせていただけると思う。

岡山委員

自由記述の意見もあるが、今、市の方で、市政フォーラムで各地区を回っておられ、その場でのいろいろな意見のやり取りもあろうかと思う。地区によっても事情が違うので、細かい内容や意見については市政フォーラムの意見で把握しているという解釈でいいかと思う。

会長

市全体の以降はアンケートから、各地区の以降は市政フォーラムから把握する形で、うまく仕訳けて整理いただければと思う。

(2) 次期総合計画等の方向性について

事務局より資料2を用いて説明

会長

基本理念/KGI/新体系/リーディングプロジェクトの4項目について、それぞれ意見をいただければと思う。布施委員、退席のお時間かと思うが、一言あれば願います。

布施委員

他の自治体名が示されていても違和感ない計画書とならないよう、次回会議で示される計画書に期待する。時間の都合で申し訳ないが、本日はここで失礼する。

基本理念

副会長

当市の魅力である子育て支援について、県内1位といった外部評価がある一方で、市民アンケートでは医療体制や買い物環境の充実を求める声が依然として多く、矛盾があるように思う。「子育て環境」という言葉が広範すぎるため、どの部分が評価されており、どの部分が足りないのか、さらに詳細に細分化して分析していけると、市の状況が見えてくると思う。

事務局

これまで市としては、医療費無償化や教育環境の整備など、他市町村に先駆けて取り組んできた。そういった事業については、今後も継続して取り組んでいきたいと思う。また、プ

ラスアルファの取組として、葛城市の子どもたちをどう育てていくかという点に非常に力を入れている。『未来人材』の育成として、市内のこどもを対象に大学の見学や企業訪問などの体験型の取り組みなどを行っている。

坂上委員

市の子育て支援は、大変優れていると思うが、同様に子育て支援に力を入れている自治体がないか調べてみた。すると、千葉県鎌ヶ谷市が非常に若い世代の転入が多くなっており、「切れ目のない支援とサポート体制」に取り組んで、産後ケアのベビースクールや検診時の絵本プレゼントなどに取り組んでいる。特に、アプリ（かまっこすくすくアプリ）での「プッシュ型」の情報発信が良いと思う。

また、今後の教育は、グローバルとローカルが一体になった「グローバル」な視点が重要だが、市の子育ての特色としては、ローカルな都市であるからこそできる「地域で育てる」子育てとして、昔のようなよその子どもでも近所の方が悪いことをしたら叱れる昔の良さを、もう一回見直しできてきたら良い。

事務局

市としては、総合計画の考え方として「誰もが」の考え方を大事にしたいと考えており、子育て世代に特化した総合計画ではなく、全世代、市に住む方全員が安心して住み続けたいまちづくりを目指したいと考えている。

会長

鎌ヶ谷市の例で挙げた「切れ目ない支援」は、「住み続けられる」に関連する、成長に合わせて継続的に住み続けられるというコンセプトに繋がっていくと思う。また、アプリのプッシュ型支援もDX推進に関連付けられるものであると思う。

色々な意見・提案内容を読み直して、基本理念や方向性に落としていくことが大事だと思う。

奥田委員

基本理念が示されたが、基本理念というものはもっと深いものであると思う。スローガンというか存在意義・行動目標のようなものであるべき。企業の基本理念はそういったものだと思う。組織の主となるもので、基本理念は一生守る、永遠に掲げるものであると思うし、それが無くなる時は、その組織を潰すときだと思う。

この基本理念は、そういったものとして作成されているのか気になった。自分自身は、企業の理念に近いものを考えていたが、そのあたりは、委員の皆様とも議論出来ればと思う。

松井委員

基本理念について、10年ごとに刷新されているように見える。これはなぜなのか。これまでの基本理念についても教えてもらえたら。

事務局

これまでの基本理念については、第一次「悠久のロマンと次代の英知が織りなす爽快都市（シティ）～葛城～」、第二次「歴史を重ね、未来を育む 時代を超えて愛される住みよい共存の都市（まち） 葛城」として、それぞれ10年のまちづくりを進めてきた。

松井委員

それぞれ似た言葉があったりするが、それらの表現は達成できなかったから変更されたのか。そのあたりの背景を伺いたい。また、基本理念については、前回もこういった場で議論されたのか。

事務局

今回と同様に、事務局から案を提示させていただき、委員の皆様にお諮りする形で議論したと考えられる。

自治体の計画は、その時代の背景や市民のニーズ、あるいはトップの交代等によって重点が変わる側面があるので、企業の基本理念とは異なる側面を持っていると考えている。第一次、第二次の理念にも共通する「歴史」や「住みやすさ」といった根底に流れる精神は継承しつつ、現在の社会情勢に合わせた表現として今回の案は提示させていただいた。

会長

これまでの基本理念においても、似ているところがある・共通する部分がある。そういったことを議論・検討していくことが深い議論に繋がるのだと思う。そういった示し方ができると良い。基本理念の根底にある考え方については、継続して引き継いでいく。そのうえで、時代の変化や各種調査結果等を反映した表現として整理・反映していく形が適当であると思う。

KGI

副会長

数値目標について、本来は理想とする目標像から逆算して目標を設定すべきであり、満足度の平均点が向上したとしても、市民にとって十分な水準に達していない場合も考えられる。平均点の向上のみを指標とするのではなく、目標から逆算した複数の指標を設定する考え方もあってよいのではないか。

また、地域満足度は市民の主観的な判断に基づく可能性が高く、感覚的な回答となることも想定されると思う。そのため、行政の取り組みへの評価だけでなく、市民の認識の影響も平均点の変動には含まれてしまうかもしれない。そういった部分からも補完する他の指標や評価方法についても検討してみても良いと思う。

事務局

次回審議会でお示しする基本計画部分では、KPIの設定もしたいと考えている。KPIについては、各分野に応じた指標を設定し、まずそれぞれのKPIの達成を目指すことで、各施策に対する満足度の向上につなげ、その結果として、KGIである地域満足度の向上を図る考えを

持っている。指標体系として、KGI の下に複数の KPI が位置づけられる構成を想定している。

コンサル

アンケートで把握した、「幸福度」と「地域満足度」について、幸福度は個人の主観的部分が強く反映される傾向にある一方、地域満足度は、幸福度と一定の相関関係を持ちながらも、より地域性や生活環境に関わる評価となる傾向にあり、まちの政策に対する満足度が上がると地域満足度の平均点も上がる。

そのため、地域やまちづくりへの満足度が向上することで、地域満足度も高まる関係性があると考えられ、今回設定する KGI については、地域満足度を目標とし、まちづくりに対する満足度を把握・評価できる指標として位置づけていくことが良いと考える。

会長

KGI の設定方法については、KGI を複数設定して評価する方法と、KPI によって十分に補完・支援することを前提として、KGI を単独で設定する方法が考えられる。しかし、今回提案された「地域満足度平均値の向上」については、KGI として採用することについては、おおむね同意が得られたと考えて良いかと思う。

松井委員

KGI として、私自身が注目しているのが「幸福度」で、若者の自殺が増加傾向にあることも踏まえ、幸福度の向上は重要であると思う。アンケートでも若年層で幸福度が低い層が一定数存在しており、平均値を上げるだけでなく、低い層を底上げし、誰一人取り残さないための支援体制が必要になっていると思う。

事務局

幸福度については、事務局としても検討項目として挙がっていた。しかし、アンケートにおいて幸福度の向上に寄与する項目は、「個人の経済状況、家庭環境」が大きく、行政施策のみでコントロールするのは難しい側面もあると考え、地域満足度を今回は指標にしたいと考えている。しかし、地域満足度と幸福度には相関が見られるため、指標としてどのように扱えるか再度検討したい。

会長

幸福度については、平均点の向上だけでなく、底上げの視点も重要という意見であったと思う。再度検討をお願いしたい。

計画体系

奥田委員

奈良県の他の審議会にも出ているが、近年の総合計画は、柱立てをしない形が多いように感じている。これはトレンドなのか。

事務局

全国の自治体の計画書をみれているわけではないので、トレンドであると示すことは難しいが、第二次計画における柱の括りは少しわかりにくい部分もあったので、今回は市民の皆様にもわかりやすいものとするため、こういった形にさせていただいた。

奥田委員

課題として整理されている9つの課題については、今後政策目標との関係性・体系化がされるかどうか確認したい。今回の資料については、計画策定途中の説明資料であると認識しているが、計画書においては現行計画のように、課題と施策とのつながりや構造が整理され、どのように計画や政策目標へ結びついていくのか示されるか。

事務局

計画書の書面では、そのような形で示したい。

岡山委員

子育て支援を手厚く進める際、やはり財源の確保は大きな課題であり必要なことであると思う。国は、「こども・子育て支援金制度」を設け、子育て支援に必要な財源確保を進めようとしており、今月の給与から徴収がはじまったと認識している。自治体としても、国の政策や補助制度を積極的に活用し、必要な財源の確保に努めていくことが重要だと思う。

事務局

国の予算措置については、児童手当の支給対象年齢の引上げや伴走型支援の強化、出産時の給付などの子育て支援施策の財源として活用されているものと認識している。国としても子育てしやすい環境づくりや経済的支援の充実に向けた方向性が示されているので、同じ方向を向いて取り組みを進めていくとともに、加えて市独自にどのような支援が可能かについても検討していく必要があると考えている。

リーディングプロジェクト

副会長

リーディングプロジェクトを選ばれた検討過程について、ご教示いただければと思う。内部でも検討を重ねられたのか。

事務局

前回、重点的に取り組む内容を示すべきというご意見をいただき、それを受けて事務局内で、現在市政の中で課題として認識している点を踏まえ、住民アンケートの結果としての市の長所・短所に対応し、伸ばしていこうという視点から、まちの活性化を図るための6つの項目を設定した。事務局案としてのお示しなので、叩き台としてこの審議会でご意見をいただければと思う。

副会長

挙げられた項目は、大変妥当性の高いものだと思う。説得力をより高める目的として、横にアンケート結果を添えて「このくらいの市民がこういうものを望んでいる」といった数値を添えていただくと、一層市民が望んでいることを示し、理解してもらいやすいのではないかと思う。

事務局

計画書作成の中で検討していきたい。

森委員

リーディングプロジェクトについて、具体的な数字を入れられないか。例えば旧當麻庁舎跡地は何年度に完成、尺土駅前整備事業は何年度までに実施など。駅前整備は長年の課題でもある。市民として「見える化」できたらありがたいので、可能であればお願いしたい。

また、成果物に関して、計画書のページ数も前回同様大きいものになると思う。中高生等も含む市民がパッと見て分かるよう、概要版をA4一枚程度のグランドデザインのように作ることは可能か。検討いただきたい。

事務局

リーディングプロジェクトの数値（年度等）の設定については、担当課との調整も必要な部分ではあるが、事務局としては入れるべきと考えているので、今後各課と相談しながら作っていきたい。

概要版のページ数の調整は、誰に届けるかによる部分が大きいと考えている。子ども向け概要版は作成予定としているが、現時点ではこういった形にしていくかは検討段階。1ページの概要版ができるかについても合わせて検討していきたい。

会長

「誰に届けるか」が最重要。他市では、日めくりカレンダーを作って毎日キーワードが市民に届くようにしている例もある。冊子、SNS、小中学生向け副読本など、手法を考えていただければと思う。

奥田委員

重点的なプロジェクトについて追記いただきありがたいのだが、プロジェクト名の「輝く未来を誘致する」という言葉について、未来を誘致するという表現は国語的にどうなのだろうか。もう一度検討いただければ。

先ほどの「概要版1枚もの」の提案については、各学校の校長先生が作成する教育課程の紹介のような、市の教育大綱や人権政策など全てを包含したものをグラフィックで表すようなイメージだと思う。取り入れられたら良いと思うので、ぜひ検討して欲しい。

事務局

表現について再検討する。

吉田委員

企業誘致については、数値を入れた方が目標になるし、一番数値を入れやすいのではないかと思う。設定をお願いしたい。

事務局

どういった数値にするかは検討が必要だと思うが、KPIを設定すれば「見える化」できると思うので、設定について検討していきたい。

吉田委員

前回会議から2回目の参加となるが、前回議論のあった各種意見について、今回一定の形で整理・表現されていると思う。今後は、これまでの調査や整理の内容を踏まえ、どのような取組を進めていくかを検討する段階にあると思うがそのあたりはどのように進めていくのか。リーディングプロジェクトもそうだが、実際に何を施策として進めていくのか示すことは、市民に対して最も訴求力のある部分であると思う。

また、各プロジェクトの推進は、課題も多く実現が容易ではない内容も含まれている。実施に当たっては関係部署間の調整や連携が重要になるだろうと思う。

事務局

現在お諮りしている方向性について本会議にて決定・承認いただいた後、各課に案を投げ、具体的な施策やKPIをどうするか調整予定。次回の審議会では、それぞれの施策・分野の方向性やKPIをお見せした上で、ご審議いただきたいと考えている。

駒井委員

尺土駅前の件は長年の課題。しっかり取り組んでいただきたい。また、県内で公立の高校や病院がないのは当市だけ。近くに安心できる病院がないのは本当に不安なこと。関連する事業がリーディングプロジェクトの中に載っていないのは残念に思う。取り組みの優先順位についてもしっかりと考えて取り組みを進めてほしい。

会長

注目度が高く、長い間要望があるプロジェクトについても、より突っ込んで書けるか、大事な部分であると思う。

松井委員

先ほど、幸福度については行政で手を入れることが難しい部分と説明いただいたが、相談体制や環境整備は幸福度に繋がる部分であると思う。また、他市に対する「売り」にもなる部分だと思うので、幸福度をKGIに設定すること、再度考えて欲しいと思う。

また、リーディングプロジェクト等計画の中に「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」という言葉を入れていただきたい。障害者だけでなく、妊婦、子ども連れ、高齢者、外

国人など、誰もが一生のうちに一度は関わることだと思う。全ての住民、世代を網羅する視点として、町のバリアフリー化を進める言葉を入れてほしい。

事務局

幸福度の指標化は再度検討する。バリアフリー・ユニバーサルデザインについても、取り入れられるよう検討したいと思う。

奥田委員

取り入れる先としては、政策目標か施策目標か。ここはしっかりと精査した方が良いと思う。

事務局

施策目標を現時点では想定しているが、庁内でも再度検討したいと思う。

会長

それでは、基本理念、KGI、計画体系及びリーディングプロジェクトの4項目について、資料の内容を基本としつつ、必要な修正を加えながら今後の検討を進めていくこととして問題ないか。

委員

異議なし。

(5) その他

事務局

次回審議会は、10月頃を予定している。進捗状況によっては追加での会議開催の可能性もあるので、ご承知いただきたい。また日程等については改めてご連絡させていただく。

配布資料

- 葛城市総合計画及び総合戦略策定審議会次第
- 第3回葛城市総合計画及び総合戦略策定審議会座席図
- 資料1 アンケート調査結果報告書
- 資料2 葛城市次期総合計画等の方向性について

以上